

令和4年度 町政執行方針



3月9日から開催された第1回町議会定例会において、岩村町長が、令和4年度の町政執行方針と予算編成概要を述べましたので、お知らせします。

令和4年第1回町議会定例会の開会にあたり、私の町政執行に対する基本的な姿勢と考え方、ならびに令和4年度予算概要について申し上げます。

私の町政執行の基本姿勢は、「将来にわたって町民が夢と希望をもって、安心して暮らせる地域社会と活気あふれるまち」をつくることであり、その実現のために、私に与えられた任期は全力で挑戦し続けてまいります。

人口減少・少子高齢化が進む中であって、持続可能なまちづくりをどう進めるか。私は基幹産業である農業・漁業の振興が何よりも重要であるとの考えから、未来を担う人材を育成しながら雇用を創出し、産業の活性化に繋げる施策を推進してまいりました。

農業においては、昨年4月に「株式会社青年舎 大関牧

場」が本格稼働し、ここを核

として新規就農研修生の受け入れや短期研修事業等を行い、酪農畜産のみならず、幅広く地域農業の振興策を推進してまいります。また、漁業

においては、「サーモン海面養殖試験事業」が3年目を経過し、地元における種苗生産と幼魚の確保に向け、陸上での種苗生産事業を進めるとともに、「北海道二海サーモン」ブランドの確立と差別化を図り、販路拡大に向けた取り組みを進めてまいります。

役場庁舎等移転整備計画については、適切な住民サービスの維持・向上が図られるよう役場組織全体の機構の見直しを念頭に置きながら、庁舎等建設基本計画に基づき、基本設計に取り組んでまいります。

新幹線新駅の開業を見据え、駅周辺はもとより町全体

として一人でも多くの乗降客が増える魅力あるまちづくりが重要となっております。新たな産業や観光資源の創出、まちなブランド力向上を図るため、ウイスキー蒸留所や牛乳工場、ワイナリーなどの誘致に向けて引き続き努力してまいります。

自然エネルギーの導入、脱炭素社会の推進のため、令和4年度は熊石地域において小水力発電事業と地熱資源調査が予定されており、また、地球温暖化の問題に地域レベルで貢献するため、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ八雲」を宣言し、長期的な視点で取り組んでまいります。

産業の活性化と労働人口の確保は重要課題であることから、Uターン・Iターンで八雲町に転入し、町内で就職した方に対する新たな支援策を展開してまいります。

「ふるさと応援寄附金奨励事業」は、貴重な財源確保と地域特産品PRの両面から政策の柱として取り組んでおり、令和3年度は、24億円を

超える寄附をいただいております。今後は、さらに魅力的な返礼品の開発、納税サイトの拡大などに取り組み、全国に向けて八雲町の魅力を発信してまいります。

また、「企業版ふるさと納税」は、令和3年度は27企業から寄附をいただいております。引き続き八雲町の産業を活性化し働く人をつくる事業に応援いただけるよう、企業へのPRに取り組んでまいります。

地域で安心して暮らしていくためには、医療の充実が何よりも重要であります。

八雲総合病院は、常勤内科医師の不足と新型コロナウイルス感染症の影響による患者減少が続いており、極めて厳しい経営状況にあります。常勤内科医師の見通しですが、4月から1名が着任し、4名体制の予定となっております。また、経営コンサルティングや医療事務アドバイザーの助言も引き続き取り入れながら、経営健全化に向けて取り組んでまいります。